

きらめき通信 Vol.18



こんにちは。

今回は10月10日歯学部1年生を対象に行われた
「歯学総論 国際保健におけるジェンダー」講義の
模様をお届けします。



医療は健康の増進を目指して行われます。疾患の理解や診断・治療法などに加えて、人をトータルに捉えた社会的な角度からのアプローチもとても重要です。文化や生活習慣などとのバランスが整い、素晴らしい手術や薬が効果に繋がります。最近では、災害や感染症など一つの国に留まらぬ国際的な視点からの取り組みの重要性が高まっています。

歯学部では、1年生の後期に動機付け教育の一環として、本年度も大阪大学人間科学研究科 グローバル人間学専攻 准教授 大谷順子先生に講義をしていただきました。大谷先生は、歯科医師でもありますが、ハーバード大学の国際保健学の修士も修められ、米国疾病管理センター(CDC)、WHO や世界銀行などの職を歴任されておられます。講義では、ご自身の経験や、国際機関がどのように各国の保健活動を推進しているのか、そうした国際的なサポートを受け第二次世界大戦後の日本の発展が可能となったお話などを伺いました。

国際的な視点からの女性の活躍度や他国からみた日本の女性の立場についても伺いました。2013年の男女格差レポートで、日本は対象国136ヶ国中105位と先進国の中の日本が際だって遅れていることをご自分の経験も交えながら話して下さいました。さらには、昨年、国際通貨基金のラガルド専務理事が来日し、低迷している日本経済の発展には日本女性の社会進出が有効であると力説した”Can Women Save Japan?”レポートについても紹介されました。

大谷先生の専門でもあるタバコ健康被害の現状や課題、さらに中国における経済発展と格差とくに社会構造が疾病を生み出している現状についても学びました。

学生たちは身近な歯科医師のあり方に加え、多様な活躍の場を経験された先生の話を通じて直接聞く機会を得ることで、将来へ多彩な道が拓かれていることに刺激された様子でした。とくに、国際保健の立場での活躍は、一度に多くの人の健康を得る取り組みとなるという視点が新鮮だったようです。日本における女性の立場が、社会的にも経済的にも男性よりも不利であることを初めて知って、自分たちが出来ることに取り組みたいという講義後のレポートも多く見られました。(文責 歯学部門統括責任者 城戸瑞穂)

九州大学病院 きらめきプロジェクト キャリア支援センター
きらめきプロジェクト

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1 2013年11月(隔月発行予定)

TEL/FAX: 092-642-5203

MAIL: kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp

URL: <https://www.kyudai-kirameki.com>



☆日々頑張っているきらめきプロジェクト所属のドクター(医師2名)を紹介します。☆

☆自己紹介☆

私は卒後13年目の内科系医師です。5年前に夫(医師)と結婚し、初めて福岡の地を踏みました。専門医も取得し、これからは妊娠出産を経験して育児と仕事の両立を…と思い描いていましたが、その前に婦人科疾患と不妊への治療が必要になってしまいました。

☆きらめきプロジェクトに参加する前☆

幸いにも素晴らしい上司や同僚に恵まれ、フルタイム勤務を続けながら通院のほか二度の手術を受けることができました。それでも副作用のために当直やオンコールはつらく、仕事への集中力が低下、家事もおろそかになりました。夫にも職場にも支えられましたが、両立は限界と判断しました。休職したいと教授に申し出たところ、きらめきプロジェクトをご紹介いただきました。私は「きらめき=ママドクター」と認識していましたので、採用対象になるのか?と驚いたほどですが、無事採用していただくことができました。

☆現在の仕事☆

現在は週2回、超音波検査を担当しています。身に着けた技術を維持でき、常勤を離れた不安が緩和されます。余裕を持ったスケジュールですので、体調がすぐれない時は気兼ねなく休養でき、おかげさまで経過は良好です。体調がよいときには大学で催される多彩な講義に参加したり、以前担当していた業務に関わったりと積極的に過ごすことでストレスを発散しています。プロジェクトに参加されている他のドクターのお話を聞き、限られた条件の中で精いっぱいキャリアを維持・向上されている姿に刺激を受けています。

☆最後に☆

私自身、10年以上急性期病院でフルタイム勤務をしてきましたが、なぜ同年代の女性医師が徐々に減っていくのか、深く考えたことがありませんでした。女性はライフステージによって出産・育児、場合によっては介護や療養が必要になることもあります。これらと仕事との両立がいかに大変か、職場や家族の支えがどれほどありがたいものか、ようやく理解できた気がします。これからも多くのドクターが結婚、出産のみならず病気、介護を乗り越えて仕事に復帰できるきっかけになるよう、プロジェクトの発展を願います。

☆自己紹介☆

こんにちは、卒後9年目の乳腺外科医師です。夫(同期の外科系医師)と息子(4歳)、娘(2歳)の4人家族です。

☆きらめきプロジェクトに応募させていただくまで☆

私は卒後、遠い他県で臨床研修をスタートさせました。患者さんの気持ちに寄り添い、真に力になることができる医師になるという大きな目標とともに、家庭を持ち子どもを産み育てるということもまた、私にとっての大きな目標であったため4年目に同郷の夫と結婚、翌年に長男が生まれました。夫婦ともに医師としての目標達成のため、それぞれの領域で先進的な医療を行っている他県のがんセンターに移動し専門科で勤務しましたが、3年目の契約更新の際、育児中であることを理由に継続勤務が認められず、病理部長のご厚意により2年間、2人の子育てをしながら悪性腫瘍の病理を勉強させていただきました。

医師としてのキャリアアップも大切ですが、育児もまた、自分にとっては仕事の犠牲にはしたくない最重要事項でしたので、専門領域への復帰の仕方には慎重になっていました。しかし、その頃より九大のきらめきプロジェクトで他科の友人や同じ乳腺外科を専門とする女医さんが子育てをしながら活躍されているのを見聞きしていたため、帰福の際はぜひ私も、. . . と思っていました。相談にのってくださった現在の上司も応募のために奔走して下さり、今年無事採用していただくことができました。

☆きらめきプロジェクトに所属して今日まで☆

現在は週3日(外来2日、手術1日)の9-17時勤務をさせていただき、残り2日は社会人大学院生として学位論文執筆等に充てています。そして土日は最大限子ども孝行ができ幸せです。所属する第一外科では教授はじめ先輩後輩の諸先生方に快く受け入れていただき(皆さんに子どもは3人必要だと言われ思案中、. . . ^.^:))、前職のときのように周りからの目にプレッシャーを感じることなく仕事をさせてもらえることに感謝する毎日を送っています。念願の乳腺外科診療にも携われ、課題は多いながらも充実した日々です。

☆最後に☆

キャリアも、育児も犠牲にすることなく前に進めるのは本当にきらめきプロジェクト、そして理解しサポートして下さる皆様のお陰と感謝しております。このすべての経験を後進の女医さん、そして患者様へ還元できるよう今後も頑張りたいと思います。

2013 学生交流会

九州大学病院きらめきプロジェクト 第4回学生交流会

…パラリンピック[®]金メダリストからのエール…

『夢を追い続けて』

視覚障がい者の立場からこれからの医療者に語る



ロンドンパラリンピック金メダリスト

演者

浦田 理恵氏

日時

平成25年 **11月28日** (木)

開演18時～

懇親会19時15分～ (軽食付き)

場所

九州大学病院総合研究棟

セミナー室105号室・サイエンスカフェ

PROFILE

熊本県生まれ。20歳過ぎて急激に視力が低下し、『網膜色素変性症』と診断。左目の視力はなく、右目も視野が95%欠損しており強いコントラストのものしか判別できない。

★2008年、ゴールボール選手として北京パラリンピックに出場

★2012年、ロンドンパラリンピック金メダル

【お問い合わせ・託児のお申込みはこちら】
九州大学病院 きらめきプロジェクトキャリア支援センター
TEL/FAX: 092-642-5203
メール: kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp
URL: <https://www.kyudai-kirameki.com>
主催: 九州大学病院 福岡県医師会
共催: 総合メディカル株式会社 周産期ゆりかごネットプロジェクト

無料託児ありです。

お申し込みは1週間前まで



参加無料



無料託児あり (事前要予約)

たくさんのご参加お待ちしております。